

●●VOL.3

ヨコレイNOTE

第62期報告書(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

特集

社長インタビュー ————— P3

ヨコレイの事業紹介

冷蔵倉庫事業

【物流センターの素顔(北海道地区)】 ————— P5

食品販売事業

【ヨコレイの子会社紹介!】 ————— P7

プロフィール ————— P1

ごあいさつ ————— P2

営業の概況 ————— P9

連結財務諸表(要約) ————— P11

特別コラム[ヨコレイくんが行く!『頑張るヨコレイVOL.2』] — P13

会社概要・株式の状況・役員及び執行役員 ————— P14



証券コード：2874

「人」に「もの」に「地球」に“優しい”食品流通のエキスパート 横浜冷凍株式会社

横浜冷凍株式会社(ヨコレイ)は、1948年の設立以来60年以上にわたって、人びとの豊かな暮らしの実現に貢献してまいりました。わが国でもトップクラスの収容能力を誇る冷蔵倉庫事業におきましては、環境に配慮した最先端の物流センターを全国に展開し、多様化する顧客ニーズに最高の物流品質でお応えしています。

また食品販売事業では「食の安全、安心」を最優先に、水産品及び畜産品では業界屈指のサプライヤーとして活動しています。ヨコレイグループはこれからも、この2つの事業を通じて「人」に「もの」に「地球」に“優しい”食品流通のエキスパートとしてグローバルな事業戦略を推進し、さらなる発展をめざしてまいります。

冷蔵倉庫事業

食材を中心に、お客様からお預かりした貨物を最適な条件下で保管し、先進の物流・情報システムにより、ジャスト・イン・タイム物流の一翼を担っています。

食品販売事業

国内外の様々な食材を手掛け、輸出入を含む仕入から販売までを一貫して行うことにより、信頼性の高い食の供給に貢献しています。

ごあいさつ

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろのご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第62期（2008年10月1日から2009年9月30日まで）の経営環境は、世界同時不況の影響により厳しい状況が持続しました。このような環境下で、冷蔵倉庫事業は概ね計画通りに推移しましたが、食品販売事業は畜肉相場の急落等により業績に大きな影響を受けました。

しかし、ヨコレイグループは、創業以来のモットーである「本業に徹する」ことで、これまで着実に業績を積み重ねてきた強みを活かし、当期も積極的な経営施策を実行しました。冷蔵倉庫事業と食品販売事業それぞれの戦略に基づいて経営資源を集中させ、特に、M&Aによる株式会社セイワフードの子会社化や株式会社アライアンスシーフーズの設立など、業容拡大に向けた攻めの経営を展開しました。その結果、当期の連結業績は前期と比べ減収減益になったものの、前期同様の配当を実施できる利益水準を確保することができました。

ヨコレイグループは現在、2011年9月期を最終年度とする第三次中期経営計画（3ヵ年）を推進しています。長年にわたって培ってきた自由で活力ある企業風土と高い専門性を有した社員によるオペレーションを源泉として、収益力の一層の強化と企業価値のさらなる向上を実現してまいります。

株主の皆さまには、これまでと同様のご支援ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

代表取締役社長
吉川俊雄



社長インタビュー

第62期の経営環境とヨコレイの事業運営に与えた影響について、ご見解をお聞かせください。

冷蔵倉庫事業は概ね順調でしたが、食品販売事業は畜肉相場下落の影響を大きく受けました。

冷蔵倉庫事業は、2008年7月までに約170億円規模の物流センターの新設を行い、当期から投資回収の時期に入りました。昨秋以降の景気後退の影響で貨物の取扱量は減少しましたが在庫率は高水準で推移し、また、新設物流センターの稼働も寄与し増収増益となりました。

一方、食品販売事業では、水産物は比較的堅調でしたが、畜産物において、飼料となる穀物相場と連動して高値を続けていた畜肉相場が下落、早期の在庫処分によって上半期に多額の処分損が発生しました。下半期には回復基調に転じましたが、上半期の損失をカバーすることができず、減収減益となりました。

第三次中期経営計画の骨子と当期における進捗状況をお聞かせください。

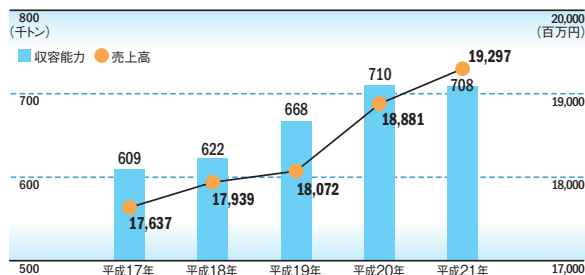
強固な事業基盤を活かしつつ、ヨコレイならではの事業モデルを再構築し、企業価値の向上をめざしています。

現在の中期経営計画の骨子は、「多彩な物流サービスの積極提案（冷蔵倉庫事業）」と「原料サプライヤーとしての機能向上（食品販売事業）」を通じて企業価値の向上を実現することですが、初年度を終了し、ほぼ計画通りに進んでいます。

冷蔵倉庫は食生活を支える重要なインフラです。近年は「食の安全、安心」に対する意識が高まり、冷蔵倉庫に対するニーズも高度化してきました。ヨコレイではこうした要請に応えるため、物流センターのリニューアルやエリア配送網の構築に注力し、ヨコレイならではの物流サービスの提供を推進しています。

食品販売事業については、多様化する市場動向や消費者の嗜好に対応できる、商品調達力の強化を推進するとともに、営業担当者が仕入から販売まで一貫して手掛けるスタイルを進化させ、提案力の強化を図っています。

冷蔵倉庫事業の売上高と収容能力の推移



高い稼働率と好調な売上が続く冷蔵倉庫事業では、積極的なインフラ整備を進めてまいります。

Q 当期に実行された主要施策とその目的ならびに効果についてお教えてください。

A 現在の不況を好機と捉え、収益基盤の整備と業容の拡大に取り組みました。

今後の持続的な成長を見据えて、当期も様々な施策を実行しました。まず第1に冷蔵倉庫事業におけるブロック体制の強化です。ヨコレイ全体の事業最適化とエリア密着型による地域に根差した収益力の向上を図るためにブロックごとの運営責任を高めました。

第2はうなぎに特化したセイワフードの子会社化と、サケなどの北方魚に強みを持つ新日本グローバルからの事業譲受によるアライアンスシーフーズの設立です。これまでヨコレイが手掛けてこなかった食材や新たな販売経路を確保するとともに、積極的な海外展開への布石を打ちました。

第3はバンコク駐在員事務所の開設です。自由貿易化の時代を見据え、国内の事業所とリンクしながら将来的にはアジア市場における食品販売事業の発展を視野に入れ、駐在員事務所を開設しました。

Q ヨコレイの他社にない強みや競争優位性はどこにあるとお考えでしょうか。

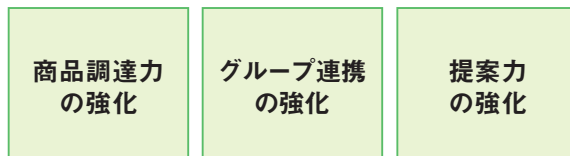
A 社員を大切にせる企業風土と透明性の高い経営体質が、安定した業績を支えています。

私は1968年にヨコレイに入社しましたが、当時から社員を大切にし、人材をしっかりと育てる企業風土がありました。その伝統は現在まで継承され、社員の潜在能力と主体性を最大限に引き出す大きな力となっています。

ヨコレイのもうひとつの強みは経営の透明性です。組織をできる限り簡素化しているため、トップマネジメントの意思が迅速・的確に現場まで浸透しやすい仕組みになっています。また、私は、時間のある限り全国の事業所を回り自らのメッセージを全社員向けに発信し、コミュニケーションを図ることを心がけています。

盤石な経営体制と活力ある社員で創り上げる「ヨコレイ品質」の向上により、ヨコレイはこれからも着実に成長を続けていけると確信しています。

食品販売事業の重点テーマ



原料サプライヤーとしての機能向上

「ヨコレイ品質」の向上へ

組織を簡略化して、意思決定を迅速にしています。また豊富な知識を持つ社員の育成に努めています。

人材育成・組織体制

品質基準

食の安全や環境に配慮しつつ、日々の業務の効率化を積極的に進めます。

システム構築

業界最高レベルをめざし、顧客を重視した「自社開発」のシステムを構築しています。

ヨコレイの事業紹介 冷蔵倉庫事業

物流センターの素顔（北海道地区）

石狩湾新港に位置する石狩物流センターは道央圏への主要物流拠点
北海道有数の農産物の拠点である十勝平野では十勝、十勝第二物流

冷蔵倉庫事業の展開

札幌圏の物流拠点である道央地区から 農産物の宝庫である十勝へ展開

北海道地区への展開は、現・吉川社長が札幌営業所の所長時代に、札幌圏の物流拠点である石狩湾新港に着目し、平成6年に石狩物流センターをオープンしたことに始まります。

その後、農産・畜産品の一大供給地である十勝地区に目を向け、平成13年に十勝物流センターをオープンしました。

両物流センターへのお客様のニーズは強く、増設を重ねた現在の収容能力は、当初より石狩物流センターは約3.4倍の約34千トン、十勝物流センターは約2.7倍の約19千トンの規模となりました。

さらに、平成20年には、より多くのお客様のニーズに高品質なサービスで対応するために、収容能力約19千トンの十勝第二物流センターをオープンしました。

石狩物流センター



十勝物流センター



十勝第二物流センター



として、
センターが物流を展開しています。

冷蔵収容能力 3万4,351トン

平成6年3月にオープンした当センターは、石狩湾の中央に位置する石狩湾新港に隣接し、輸入貨物のストックポイントとして、また、札幌圏の物流拠点としての役割を担っています。

北海道産やロシア等から輸入される水産品をはじめ、幅広い商品の保管を取り扱っています。また、保管業務だけではなく、センターデポ機能や凍結・解凍作業も行うことで、お客様のご要望に対応しています。

冷蔵収容能力 1万9,074トン

平成13年6月にオープンした当センターは、帯広・広尾自動車道芽室帯広インターチェンジに程近い芽室東工業団地に位置し、近郊の生産地及びメーカーからのアクセスに優れています。

産地型物流センターとして、地元の農産・畜産・乳製品等を中心に保管サービスを提供し、年間を通じ商品安定供給の役割を果たしています。

大きな特徴の1つに、加湿・吸排気・オゾンによる脱臭・殺菌をコンピュータで制御する農産物専用室を提供するなど、お客様の幅広いニーズに対応しています。

冷蔵収容能力 1万9,560トン

十勝物流センターに隣接する当センターは、道内のお客様の高まるニーズに対し、高品質なサービスを提供し続けるため平成20年7月にオープンしました。

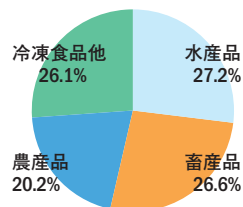
農産物専用室の設置やワンフロア2,000㎡のプラットホームを持ち、また、各荷捌場には「冷却・除湿装置」を完備し、幅広い物流ニーズに対応できる設備を備えています。

当期の業績

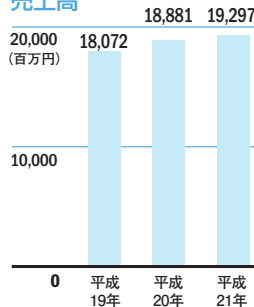
当事業の事業環境は、期初より個人消費低迷の影響から荷動きが鈍い状況が持続し、国内入出庫取扱量は前年同期比で約3千トン減少しました。このような環境下で、当社はブロック体制を軸としたエリア密着型の集荷活動及び物流一貫サービスの積極的な推進を行い、前年同期と比べ平均保管在庫量は9.2%の増加、運送収入は16.9%の増加となりました。また、前年同期に新設した鳥栖第二物流センター及び十勝第二物流センターの本格稼働も寄与し、増収増益となりました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績につきましては、売上高は19,297百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益3,621百万円（前年同期比8.5%増）となりました。

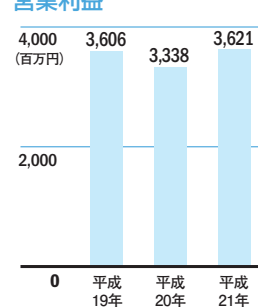
当期在庫量品目別割合



売上高



営業利益



ヨコレイの事業紹介 食品販売事業

グローバルな 「商品調達力」の 強化をめざして

ヨコレイはこれまで食品のサプライヤーとして、国内外より様々な商材を皆さまに供給してきましたが、近年世界中で水産物の需要が増加し続けており、「食の安定供給」を行うにはその調達力が今後の事業展開において重要な課題となっています。

今回ヨコレイグループに迎えた(株)セイワフードと(株)アライアンスシーフーズは、それぞれの分野においてトップクラスのシェアと生産ならびに管理ノウハウを持ち、今後グローバル展開を行う上で重要な役割を担う企業と考えています。

ヨコレイの子会社紹介！

ヨコレイグループは、事業活動のフィールドを全世界に拡大するため、今回はヨコレイグループのグローバル化の重要な役割を担う会社2社

セイワフード

SEIWA FOOD

うなぎに特化し、自社ならびに提携グループによる「一元管理」により、高い安全性と競争力を実現しています。

うなぎの専門商社として1984年に創立以来、活うなぎ及び加工うなぎの販売で着実に地盤を固め、2006年には国内流通量の約10%を占める業界のトップ企業にまで成長しました。

セイワフードの強みは、飼料の配合から、稚魚、成鰻に至るまでの過程を一括して自社ならびに提携養鰻場にて行う「一元管理システム」を業界で唯一構築している点です。この仕組みによって、安全で安心な高品質のうなぎを供給しています。

白子うなぎ(稚魚)



黒子(体長15cm程度)



成鰻



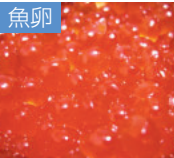
アライアンスシーフーズ

Alliance Seafoods

世界に張り巡らせたネットワークを駆使して、原料供給から加工販売まで、水産品に関するあらゆるニーズに応えています。

海外に広いネットワークを持つ新日本グローバル株式会社より事業を継承し、2009年6月に福井中央魚市場株式会社との共同出資によって設立しました。

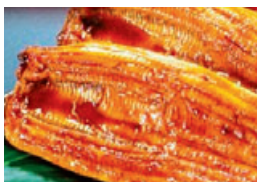
単なる原料の販売だけでなく、ユーザーのニーズに合わせ、最も良い原料を最も適した加工場にて処理をするシステムを構築するなど、提案型のビジネスを展開しています。



海外ネットワークの構築を進めています。
をご紹介します。

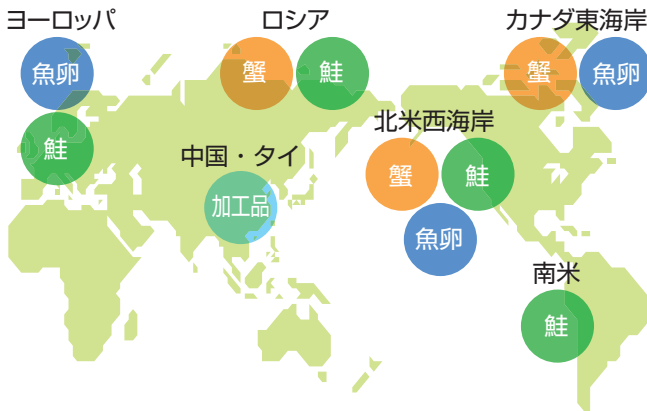
国際的に認められた品質管理体制によって 安全で安心できる製品を供給いたします。

中国の提携加工場では品質管理、品質保証の一環としてISO9001, HACCP, IFS (国際食品規格)、EUレジスタードライセスなど国際標準のライセンスを取得しています。



台湾及び中国の提携養殖場では、農林水産大臣が決定する日本農林規格 (JAS規格) の中の生産情報公表養殖魚JAS規格を養殖うなぎとして初めて取得し、トレーサビリティの明確な養殖うなぎをマーケットに供給するシステムを確立しております。

アライアンスシーフーズの海外ネットワーク

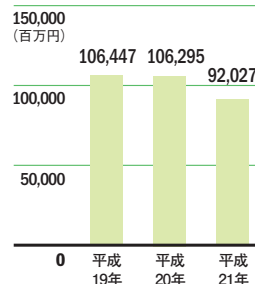


当期の業績

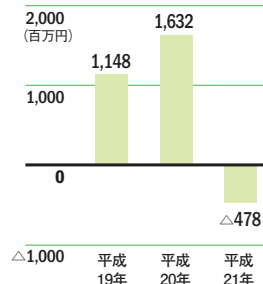
当事業の市場環境は、世界的な不況により需要が低迷し厳しく推移しました。上半期には、畜肉相場の急落による処分損及び秋鮭の不漁等により大幅な営業損失を計上しました。下半期には畜産品は相場下落に歯止めがかかり、利益率は回復しました。また水産品は、当社グループの主力商品であるホッケ、イカ、ウナギ等の販売強化と在庫管理により前年同期と比べ売上高は増加、利益率も維持しましたが、上半期の大幅な減収減益をカバーできず、通期では前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績につきましては、売上高は92,027百万円 (前年同期比13.4%減)、営業損益は478百万円の営業損失 (前年同期は1,632百万円の営業利益) となりました。

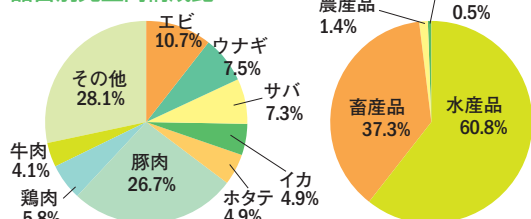
売上高



営業利益



品目別売上高構成比

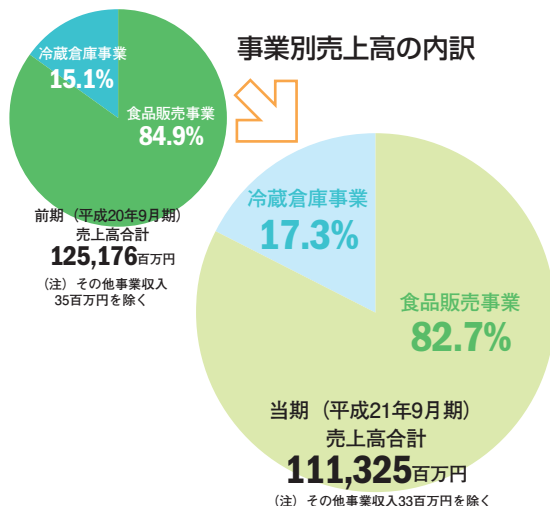


営業の概況

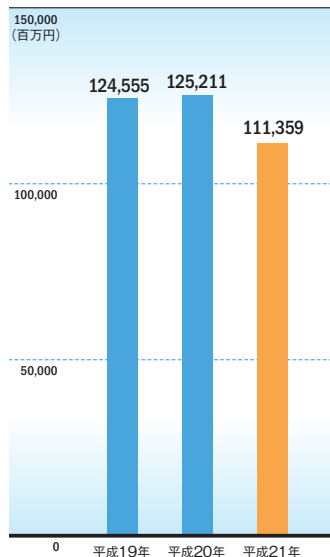
当期の概況

当社グループは、平成20年11月に発表いたしました第三次中期経営計画（3ヵ年）の事業方針に基づき、冷蔵倉庫及び食品販売の両事業ともにさらなるサービスの高度化や新規需要の開拓に積極的に取り組んで業績の向上に努めてまいりました。

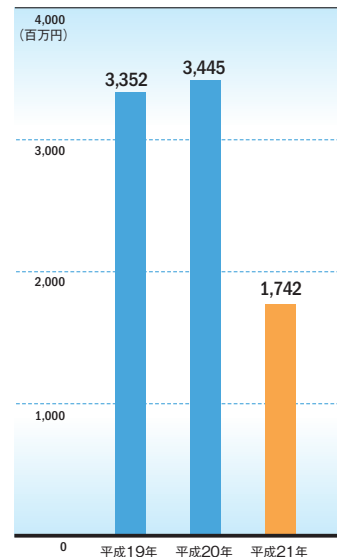
しかし、冷蔵倉庫事業は概ね計画通りに推移しましたが、食品販売事業においては昨年10月以降の急激な畜肉相場下落が業績に大きな影響を与えた結果、当連結会計年度の売上高は111,359百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益1,742百万円（前年同期比49.4%減）、経常利益2,041百万円（前年同期比44.4%減）、固定資産売却及び除却損並びに減損損失等の特別損失が260百万円あり、当期純利益は974百万円（前年同期比48.3%減）となりました。



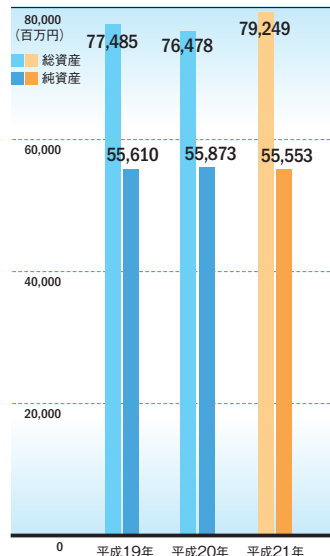
売上高



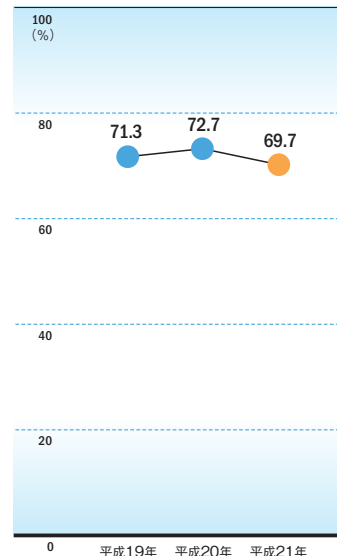
営業利益



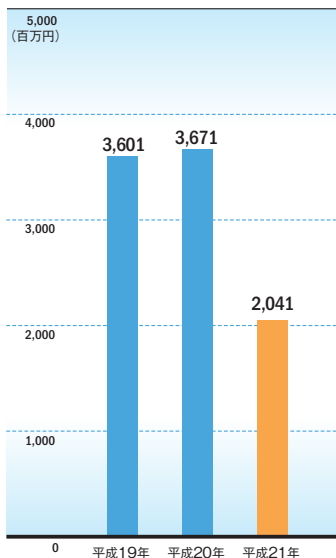
総資産・純資産



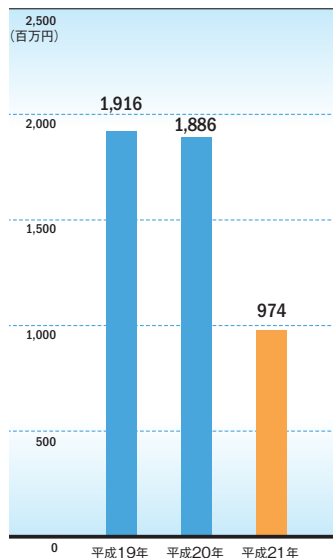
自己資本比率



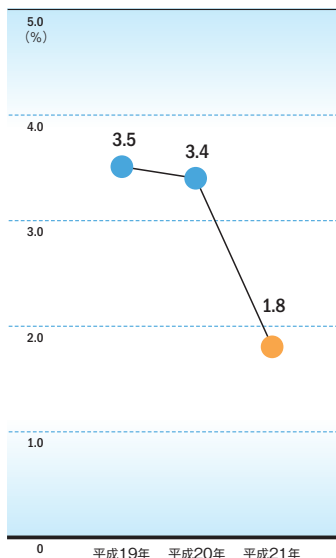
経常利益



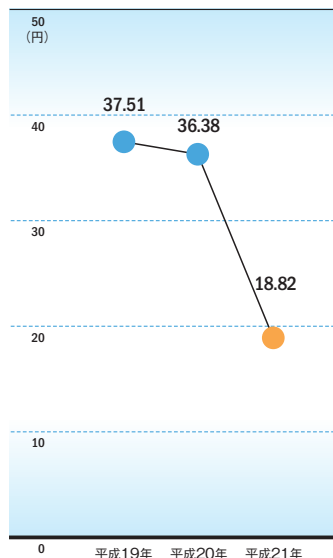
当期純利益



ROE



1株当たり当期純利益



次期の見通し

今後の経済環境の見通しは、在庫調整の進展に加え輸出や生産も増加し続けてはいますが、厳しい企業収益の状況や設備過剰感の高まりを背景に設備投資の動きは鈍く、当面は企業部門の需要低迷は続くものと思われ、また失業率の高水準化など雇用・所得環境が厳しい状況のもとで、個人消費は弱含みで推移するものと思われます。

当社グループでは、このような環境に対応し適切な事業展開を行い、企業価値を高めさらに魅力的な企業となるために、平成20年10月からスタートしました第三次中期経営計画（3ヵ年）の目標達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

冷蔵倉庫事業につきましては、社員による物流オペレーションを通して物流品質の向上を図り、また、幅広い顧客ニーズに対応するため引き続き設備のリニューアルを実施し、多彩な物流サービスの提案を積極的に推進します。併せて新設物流センターの早期軌道化及び収益向上に努めてまいります。

食品販売事業につきましては、原料の安定供給と安全性の提供を最重点課題と位置づけ、事業活動を展開してまいります。今後もさらに、連結子会社を活用した原料サプライヤーとしての機能拡充に努め、調達力の強化と販路拡大を図る一方で、マーケット及び在庫のリスク管理を強化し、業績伸展に努めてまいります。

次期の連結業績見通しにつきましては、

次期(平成22年9月期)連結業績予想

売上高	140,800百万円
営業利益	3,880百万円
経常利益	3,985百万円
当期純利益	1,990百万円
1株当たり当期純利益	38円43銭

を予想しております。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第62期	第61期
		平成21年9月30日現在	平成20年9月30日現在
資産の部			
流動資産		25,571	24,868
固定資産		53,678	51,609
有形固定資産		44,933	45,467
無形固定資産		3,041	1,662
投資その他の資産		5,703	4,479
資産合計		79,249	76,478
負債の部			
流動負債		14,819	19,693
固定負債		8,876	911
負債合計		23,695	20,604
純資産の部			
株主資本		55,207	55,339
資本金		11,065	11,065
資本剰余金		11,109	11,109
利益剰余金		33,532	33,645
自己株式		△ 500	△ 481
評価・換算差額等		60	249
その他有価証券評価差額金		200	342
繰延ヘッジ損益		△ 1	△ 3
為替換算調整勘定		△ 138	△ 90
少数株主持分		286	283
純資産合計		55,553	55,873
負債純資産合計		79,249	76,478

CHECK POINT

固定資産の増加

- (株)セイワフード株式取得
(連結子会社化)…………… 2,500百万円
- 大阪市事業用土地取得…………… 984百万円

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第62期	第61期
		平成20年10月1日から平成21年9月30日まで	平成19年10月1日から平成20年9月30日まで
売上高		111,359	125,211
売上原価		104,010	116,374
売上総利益		7,348	8,837
販売費及び一般管理費		5,606	5,392
営業利益		1,742	3,445
営業外収益		498	309
営業外費用		199	82
経常利益		2,041	3,671
特別利益		93	0
特別損失		260	247
税金等調整前当期純利益		1,875	3,424
法人税、住民税及び事業税		721	1,645
法人税等調整額		153	△ 126
少数株主利益		25	18
当期純利益		974	1,886

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第62期	第61期
		平成20年10月1日から平成21年9月30日まで	平成19年10月1日から平成20年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,676	6,676
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 4,910	△ 5,730
財務活動によるキャッシュ・フロー		254	△ 46
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 9	△ 9
現金及び現金同等物の増減額		3,011	889
現金及び現金同等物の期首残高		2,183	1,294
現金及び現金同等物の期末残高		5,194	2,183

(単位：百万円)

連結株主資本等変動計算書

(平成20年10月1日から平成21年9月30日まで)

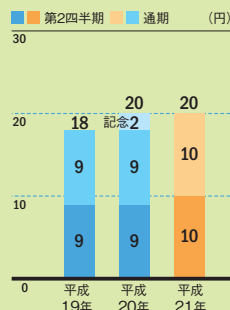
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成20年9月30日残高	11,065	11,109	33,645	△ 481	55,339
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 1,087		△ 1,087
当期純利益			974		974
自己株式の取得				△ 19	△ 19
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 113	△ 19	△ 132
平成21年9月30日残高	11,065	11,109	33,532	△ 500	55,207

	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年9月30日残高	342	△ 3	△ 90	249	283	55,873
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当				—		△ 1,087
当期純利益				—		974
自己株式の取得				—		△ 19
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△ 142	1	△ 48	△ 189	2	△ 186
連結会計年度中の変動額合計	△ 142	1	△ 48	△ 189	2	△ 319
平成21年9月30日残高	200	△ 1	△ 138	60	286	55,553

ヨコレイの配当政策

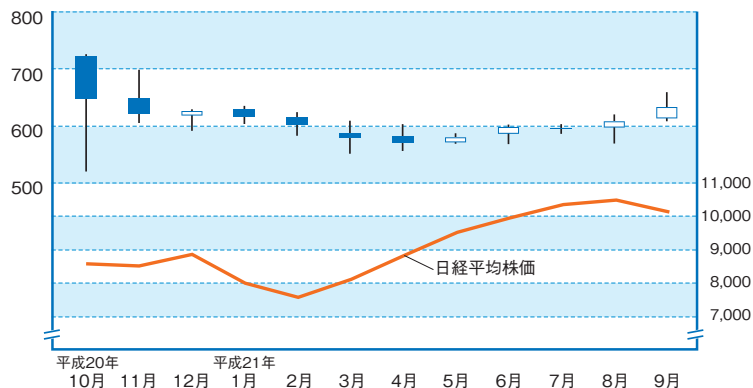
ヨコレイでは、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題の1つとして認識し、配当性向40%以上の維持を目標とした安定配当の実現を基本方針としています。

当期の期末配当金は、この方針に基づき、1株当たり10円とし、年間配当金は20円とさせていただきます。



株価の推移

(単位：円)



特別コラム

ヨコレイくんが行く!

頑張るヨコレイ VOL.2

「フォークリフト コンテスト」

ヨコレイには安全衛生活動の発表の場として全国5S大会があるけれど、これと並んで安全意識を高める全国フォークリフトコンテストもあるんだ。



横浜にあるヨコレイ子安物流センターがコンテストの会場だ。

当日の朝、北は北海道から南は鹿児島まで、予選を勝ち抜いた腕自慢のフォークリフトオペレーターたちが、続々と集まってきた。女性もいるぞ。

総勢25名で競われるコンテストは、実技と筆記で行われ、フォークリフトに関する知識も必要となる。技能が優れているだけでは、上位にはなれないんだ。

実技は、貨物の運搬（積み下ろし）を行いながら、決められたコースを走行するというもの。決してスピードを競うものではなくて、基本的に忠実な操作と、安全で効率的な走行を競うものなんだ。

おっ、始まったぞ！ かなり緊張した面持ちだ。でも、狭いコースの中を上手く走行しているぞ。



今回の「ヨコレイくんが行く」は、今年の7月に開催された第5回のコンテストの様子をみんなに伝えるよ!



指差し呼称もしっかりできている。タイム

も規定内に収まっている様子だ。これは、いい結果が出そうぞ。

そうぞ、筆記の会場も見てみよう!

ムム・・・。静まり返った会場内で、みんな難しそうな顔をしているぞ。これは、大変そうぞ。競技がすべて終わるまで、結果は予想が付けられないな。

3時間の全競技が終了し、場所を変えて表彰式。

みんな緊張感から解放され、和やかな感じだ。上位3名が表彰され、社長から副賞を受け取った。日頃の努力が報われるうれしい瞬間だ。

ヨコレイでは、コンテストを通じて、社員の安全に対する意識の向上を図り、全国で活躍する社員の交流を深めているんだ。



現場での毎日の業務の積み重ねは、すごい技となっていくんだね。次回も楽しみにね。



会社概要 (平成21年9月30日現在)

会社名	横浜冷凍株式会社
本社所在地	〒220-0022 横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階 TEL：045-326-1010(代表) FAX：045-326-1145
設立	昭和23年5月13日
資本金	11,065,926,625円
従業員数	962名
業務内容	1.冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業 2.水産品の加工、販売並びに輸出入 3.農畜産物の加工、販売並びに輸出入 4.不動産賃貸業 5.貨物運送取扱事業並びに貨物自動車運送事業 6.食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売 7.その他前各号に付帯関連する一切の事業 (定款における事業目的)

株式の状況 (平成21年9月30日現在)

発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式の総数	52,450,969株
株主数	13,892名

大株主 (上位10名)

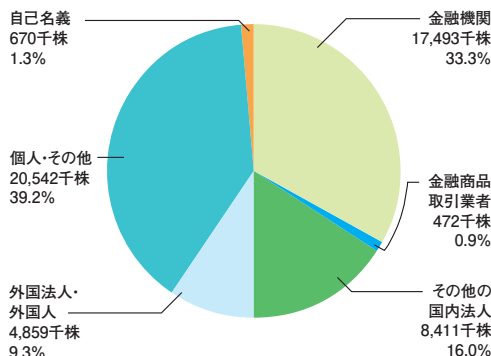
大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,991	9.64
第一生命保険相互会社	3,109	6.01
株式会社横浜銀行	2,176	4.20
農林中央金庫	1,473	2.85
株式会社八丁幸	1,411	2.73
ビー・エヌ・ピー・パリア証券会社	1,280	2.47
株式会社サカタのタネ	1,022	1.97
横浜冷凍従業員持株会	1,000	1.93
横浜振興株式会社	892	1.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	879	1.70

(注)出資比率は自己株式(670,460株)を控除して計算しております。

役員及び執行役員 (平成21年12月21日現在)

代表取締役社長	雄次
専務取締役	明雄
取締役	文正
取締役	啓文
取締役	敏彦
取締役	孝一
取締役	祐司
常勤監査役	伊知男
常勤監査役	順三
監査役	介蔵
執行役員	等徹
執行役員	人次
執行役員	二賢
執行役員	賢男
常務執行役員	川林
常務執行役員	野瀨
常務執行役員	西島
執行役員	飯島
執行役員	西山
執行役員	大久保
執行役員	井上
執行役員	吉野
執行役員	平久
執行役員	棚橋
執行役員	笹安
執行役員	岩越
執行役員	畑千
執行役員	竹村
執行役員	俊健
執行役員	隆文
執行役員	啓文
執行役員	敏彦
執行役員	孝一
執行役員	祐司
執行役員	伊知男
執行役員	順三
執行役員	介蔵
執行役員	等徹
執行役員	人次
執行役員	二賢
執行役員	賢男
執行役員	川林
執行役員	野瀨
執行役員	西島
執行役員	飯島
執行役員	西山
執行役員	大久保
執行役員	井上
執行役員	吉野
執行役員	平久
執行役員	棚橋
執行役員	笹安
執行役員	岩越
執行役員	畑千
執行役員	竹村

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日
	剰余金の期末配当 9月30日
	剰余金の中間配当 3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告
	※電子公告は当社ホームページに掲載いたします。
	なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。
	http://www.yokorei.co.jp/investors/investors/electronic-public-notice/
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株主の皆さまの声をお聞かせください。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2874

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、**いいかぶ**と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で**謝礼(図書カード500円)**
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーマディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーマディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

ホームページをリニューアルしました。 <http://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイは本年10月にホームページを一新しました。

1Rのページには、新たに「個人投資家の皆さまへ」というサイトを立ち上げ、ヨコレイをもっと深くご理解いただけるよう、事業内容や沿革、財務ハイライトなど豊富にコンテンツを揃え、アクセスしやすくなっています。

また、採用のページなど、ヨコレイが積極的に取り組んでいるサイトも充実させています。

ヨコレイでは、今後もさらに読みやすく、かつ迅速な情報の開示をめざしてまいります。

